夕刊
磐城新聞
六月十九日發行
日曜祭日翌日休刊

土地賃貸價格の改訂に就て

高屋税務署長談

下

改訂の大綱を申上げて見ますと

一、賃貸價格は昭和十一年四月一日の有租地即ち地租金を納めてをる土地について行ふ

二、賃貸價格は各地目毎に土地の狀況類似する區域内に於ける標準賃貸價格によるものである

三、右の區域及び賃貸價格は、賃貸價格調査委員會の議に附し、政府に於てこれを決定する

四、賃貸價格調査委員會選擧期日前十五日の現在に於て地租名寄帳に納税義務者として記載せられた方々の自町村役場單位を以つて各一人を選擧したる調査委員によつて組織せらるゝものである

五、調査委員の選擧は明年六月上旬頃各町村役場に於て執行せらるゝのであるが、特に注意を要するのは國税滯納處分を受けたる後一年を經ざる者は選擧權又は被選擧權を有せざることになる

以上は大体のことであつて大正十五年の調査とその方法に於て殆んど變る所はないが、たゞ、大正十五年の調査には舊法即ち地價を標準とせし時代の地租額に比し三、八倍を超ゆる土地にあつては、その地租額を舊地租額の三、八倍に止どめたのを今回はこの制限率を四倍とし、これを超ゆる金額に相當する地租金は昭和十五年まで之を免除し、十六年以後は撤廢せられ無制限に徴收せらるゝ爲郡會地の郊外など發展地等にはかなりな影響を與へることゝなりませうが、當地方には殆んど該當する土地かないだらうと思はれます。從來はこの制限率あるため全國的に見て却つて不公平な課税となつてゐた憾がありましたが、土地利用價値から考へ今度の改訂は結構のことゝ存じます

又今回の賃貸價格改訂の結果は大体に於て地方農村殊に東北方面の負擔は餘程輕激され、都市の負擔は反對に加重せらるゝではないかと思ふ。これ亦時勢に適應する喜ばしい現象と考へられます。この賃貸價格改訂の事務は税務署に於て行ふもので當署にても目下臨時に人を雇入れ準備に忙殺されてゐますが、追々と署員が町村に出張地主の方々につき土地の賃貸又は賃貸料の賃例等調査の筈でありますから、若し參上の節は帳簿なり、書類なりの御提供を願ひ。尙詳細の御說明を求め、出來得る限りの資料により最も正確なる基本調査を樹て、更に編級の爲現地につき有ゆる方面より觀察を遂げ調査委員會に對する原案の作成に當る關係上、町村の公職に在らるゝ方々は勿論土地の精通者又は地主各位の絕大なる御援助を得この國家的大事業を完成致したく新聞紙上を通じ切望する次第であります

をりをり（下）

恩田榮一

○ふり仰ぐみ空を領す起重機のうへに室あり事務執れる見ゆ

○起重機の大きく動くはたらきを見せまく欲りぬさかしら人に

○鬪爭の心やみなむ淑女らは裝ひすゞしく肩に觸りゆくを

○淺宵の柳青める街ゆけば抗爭（あらそひ）ごころくづをれにける

磐城歌壇題詠募集

六月題詠　新妻久滿夫選

『麥』『雲』　歌數自由

締切　六月二十日

馬鹿三考

高瀨勝男

上

泥棒にも三分の理あり、そもそも馬鹿と嘲する、ゆわれ如何哉

百里のみち九十里になかばすべしと、まづ語るをきゝて說くところあらば拙庵に參じて、腹臓をみすべし

×

まづ第一、馬鹿をとく馬鹿、己を知らず勝手なる、ひとりよがりに夜迷する

雜草に耳をよせて、命をきくと滑稽の程を示し、石はたしかにいきてると、言褻を强める、まつたく正氣のさたとは思はれない。御本人それでも、大眞面目、世間の煩瑣は、己の生活でなく、他人の生活をやつてゐると。宜してつとめて趣然と構へるところ、蛙が生尿に不關の如し、以て一角の聖人と御座る。このもの坊主にも知己あれば、極樂と地獄の境、女を戒め、酒をつつしみうつことの惡業を區別して、本年三十二才いまだ、戀もなし、金もなし、六疊の室に寢おきしてひたすら、後生の極樂をまてつ、近頃、あやしい女のみるカフエーに入るのでないかと親切な人が注意してくれる有難い限りで、まさか年頃のぐあいでと正直にむへなく、あわてながらのんだ調子でと

×

酒のみも馬鹿のうち、醉ふたまゝでゆかいで出馱羅目なれば、酒のんで馬鹿になり、罪、兎角笑止に醒めて氣もないが、のむと變にからまる、人。人がある。鼻毛も酒になすつて、のばす入。入

嘶の人形

内山泰一

母様灯りを消したらば
私はねんね夢の國
お舟に乘つてギッチラコ
そこはお嘶の國なのよ
キユーピーちやんやお人形さん
何と可愛いいお目目でしよ
こんな玩具はどこにあろ
だれももつてはいないでしよ
象さんキリンさん行列よ
はりこの虎も通ります
お首を振つてノコノコと
私も一緒についてくの

北小金訪朋

珠簪　小野猗亭

盂蘭話舊坐邸莊
山紫水明詩思長
百事功成多自遁
一窗風月引壺觴

6月20日

△秀吉老母の病氣平癒祈願（天正一六）△野郎歌舞伎の起（慶安五）△佛國大革命（一七九二）△新派劇始て淺草中村座で開演（明治二五）△平小鐵湯本經由側奪取運動開始（昭和一〇）

小說　高橋是清

（44）　松浦泉三郎作　佐々木今朝吉畫

異人館の惡童（四）

骨格のガッシリした、眉の濃くせまつた、六尺餘の大男だつた。船長室の粗末な椅子に倚つて、マドロスパイプの煙りの中から

『どんな理由が、君に外國渡航を決意せしめたか？』

と、然し、思ひの他柔和な聲で訊いた

『英學修業の目的から……！』

和喜次は堅くなつて答へた

『何處なり御都合宜敷きところへお世話戴きたいと思ひます』

船長は暫らく目を擧げて……

ラムプの灯を見つめてゐたが

『この船はロンドンに向ふ然し幾月の後に歸り得るかは未定である。半年かゝるかも知れぬ。一年後になるかも判らぬ。船中では充分英語の修業は出來る。何故なれば、船員は悉く英語のみを用ひてゐるから。だが見る通りの帆前船だ。これで大海を乘切ると云ふことは承知の上であらうか。そしてそれ故に途中難儀が時に君を襲ふかも知れぬ、と云ふことも？』

『覺悟の上のお願ひです』

和喜次は唾液を呑んだ

船長は大きく領いて

『宜敷い。では私はキャッビン・ボーイとして君を採用しやう。そしてロンドンへ歸省したら、然るべき家へ世話しませう。本船出發は一ヶ月後です。それまでに船へ來る宜敷い。御苦勞さん……』

さう言つてニッコリした

『有難う存じます。何分宜敷くお願ひ申上ます』

『宜敷い。宜敷い。日本ボーイ仲々勇敢、驚きます。織田さんにも宜敷く』

怪しげな日本語で笑ひながら和喜次を送り出した

歸つて岡田に會見の顛末を話すと、織田も喜んで激勵した

脫走！

床に入つて考へると、然し、流石に和喜次は眠れなかつた

（祖母様にだけは斷らねば而し、斷れば引留められることは、判り切つてゐた（一層默つてこの儘…）

が、その後のことを思ふと、祖母の歎き悲しむ顏が痛々しく暗中に浮んで來た

（矢張り織田さんに一應…

相談してみたが、翌日、織田も困つて、腕を拱いてしまつた。名案は仲々浮ばなかつた。一週間餘りして兎に角、船中の人となつてしまつてから、手紙で諒解を求めて…と、話が一決してから、初めて、織田の頭に、星恂太郎の名が思ひ浮んだ

星恂太郎は、矢張り仙臺藩の藩士で、横濱へ英國兵式修業の爲に出て來て、當時は、衣食のために、米國商人ヴアンリーの店に働いて居た。ヴアドンドリーは各藩に、鐵砲その他の兵器類を賣りこんで、店は常に繁昌してゐた

（さうだ。星に頼んで…）

さう思ふと、織田はその足で星を訪れ、詳しく事情を述べて和喜次のために頼むと

『では兎に角高橋をわしのところへ寄越して見て呉れぬか』

星は、後年榎本武揚の手に屬して五稜廓に據つた程の激しい氣象を眉間に見せて

『勝安房殿の息小鹿が亞米利加へ留學するので、庄内藩からは高木三郎、我が藩からは富田鐵之助の兩人、これを同行させてはどうかと、勝殿から大童さんまで話があつたので、これを決めて、序に横濱へ出しておる子供も、と言ふことになり、鈴木は決めたが、高橋は不許可な。而しそれ程の決心とあらば會つた上で考へてみても宜い』

と、言つた

織田は歸つて和喜次に語り、即刻星を訪ねるやうにと命じた

廣告

友部株式店
株ハ一株ヨリ、債劵ハ一枚カラ賣買致シマス。
平町三丁目　電話一七七番

平　磐城無盡　町
共存共榮　趣味ノ貯蓄　簡易ノ金融　誠意堅實

レコードは十錢日掛が便利です
萬年筆。蓄音器
時計。メガネ
自轉車ランプ
高橋時計店
平町二丁目
是非御申込下サイ店員參上御相談申マス
（小店員募集委細面談）

大和田醫院

ほねつぎ
桑原柔道整骨院
平町公園下
電話六七四

勉强ノ店（良クテ安イ）
建築美品
床柱、天井板、ベニア板
新入荷品、秋田杉四分板、
山川印優品建具材
内外銘木　建築木材一式　便利丸、木物
平町紺屋町
㊎織田材木商店
電話平四六〇番
◎建築木材類ノ御用命ハ誠實勉强ノ當店ニ◎

國はニッポン・魚は凍魚
御小賣　日本水産特約
平製氷會社　電二二八・三二六番
鯛　エビ　白魚　ワカサギ　銀鯛　甘鯛　甲イカ　鰹　北寄貝　帆立貝　目抜切身　うに貝燒
ヒノマル凍魚
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。
料理店　四丁目　ト印魚問屋　電五二八番

醫學士　吉田久雄
吉田眼科醫院
平町紺屋町　電話六八番

時代の要求皆樣の足!!
尼子タクシーへも
豆タクが入りました。
御玄關から玄關へ…迅速簡便
是非御利用を……
市內…三〇錢　市外…四割引
、流線型セダン、大型貸切バス
宮行=直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平町二丁目
尼子自動車商會
電話六四〇番

店頭裝飾品
目下全國的流行ノ
ダイヤネオン（一名アメンボー）
平町一丁目
森下商店

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
電話六一番
本店　水戸線下館驛前（電話五五・三三九番）
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話八六五三　二四）
常磐線關本驛前（電話中潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
久慈濱支店（電話一三七番）
海上給油（大津、平潟）
及油槽所（小名濱、江名濱）
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、植物油、胡麻油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ

平町南町五二
根本產婦人科醫院
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
（手術室完備　入院隨時）

石炭　一〇〇％サーヴ井ス
時節柄ダンゼン値下げ！
一等塊　正味五十斤入一俵　金二拾八錢
特塊　同　金二拾五錢
品質が優良　目方が正確　デナケレバ　値段バカリ安クトモ結局高イモノニナリマス
此の點は當店を絕對に御信用願ひます。
▲市內は一俵より迅速に配達致シマス。
電話三七番
石炭　コークス　豆炭
㋡阿部石炭商店

五十嵐產婦人科醫院
平町新川町一二
醫學博士　五十嵐雄二
電話三七〇番
（入院應需）

男、女學生夏服
其他漸新及一般夏服特賣
洋服は髙島屋
注文並に既製品
高島屋洋服店
平町二丁目電話三八六番

海水浴客の便を圖り 平驛を中心に臨時列車運轉

水運今夏のお膳立決る

昨今の空合ではどうやら空梅雨で過ぎるやうだ そうなると愈よ展開される海、海のシーズン！、この書き入れを控へて石城七濱では早くも迎客の準備に餘念がない、水戸運輸事務所ではこれら海水浴客の便を圖り來月二十九日から八月二十五日まで平驛を中心として臨時列車を運轉する事になつた

△下り 平着九時三四分の列車を平發九時五五分久の濱行の臨時列車として運轉

△上り 平發午後五時〇五分の上野行列車は久の濱を四時二五分四倉を四時三三分に出發して直通運轉する

△七月三十日、八月一、二九か十一日は平着午前七時三七分久の濱行の臨時列車として運轉し尙當日は前記列車及び湯本發午前八時四〇分、同一〇時二五分久の濱行ガソリン車を波立藥師の裏に停車せしめ降車客の取扱をなすと同時に午前中四、五の列車を指定して割引乘車券を發賣する筈である

磐中在學の五名 全國中等學校美術展入選

第一部に輝く力作水彩畫

日本大學主催文部省後援の第一回全國中等學校美術展覽會は十七日より三十日まで上野の東京府美術館において開催中であるが、全國各校よりの應募二、三四三點につき審査の結果繪畫彫刻工藝品書道を合せて入選作品一、九一四點を決定した、入選者關係の分左の如し

第一部繪畫(水彩畫) 磐城中學 渡邊和夫 同山家實三 同北野正明 同大塚靜雄 同三田實雄

○○○○○配屬將校出席

既報―大

井川磐中、佐藤平商の配屬將校は今十九日双葉中學で開催の濱三郡將校會議に出席した

鈴木芳正君渡滿

平町鎌田町々議鈴木光吉氏次男芳正(三五)君は昨年四月盛岡第一拓殖訓練所に入所研鑽を積んでゐたが此程滿洲拓殖訓練實習のため農業移民として明二十日平發午前六時十五分上り列車で出發する

日收約一二百圓也

平税務署管內の 第三種所得税番附

平税務署管內の第三種所得税は既報の如く過般凡ての調査を了し目下各種集計の取纏め中であるがその階級別を見ると

所得税階級別表

種別	人員	所得(千圓)
千二百圓以下	三一	一四
千五百圓同	三九	三九二
二千圓同	二四四	四〇一
三千圓同	二四七	三七二
五千圓同	二二七	五〇〇
七千圓同	六〇	一九六
一萬圓同	四三	一八六
同一萬五千圓	二七	一四三
二萬圓同	一六	三三三
三萬圓同	二三	三〇〇
五萬圓同	九	七一

合計納税人員千三百八十八人(內合算課税家族數四百七十人)之の總所得額二百四十一萬九千百五十九圓に上り一口あたり千五百圓と云ふのが一番多いのは千圓以下で二千圓以下之に次ぎ、最高は家族と合算の七萬餘圓、この税金約七千五百圓と云ふのが一口ある

雄飛せよ地方人

出稼者奬勵のため 巡回映畫計劃

海外雄飛を奬勵する映畫會の開かれると同樣に平職業紹介所では地方出稼者奬勵のための巡回映畫會開催を計劃中で四家所長は此程開かれた縣下所長會議にも該施設の實施方を提案した結果萬場一致可決され縣當局に於て準備を進めた上愈よ實施する事に決定、各地産業の復興狀況等を收めて映畫によりともすれば引つ込み思案の傾きある地方人の進出を强調する事となり、これに附隨して求人口閉拓の連絡に關しても目下着々新計劃を進めてゐると

此際の加入者に 若い番號が當る

平局の振替貯金利用宣傳

平局では既報の如く過般來町內心當りに就て振替貯金の口座加入を勸誘中であるが比較的成績良好で從來の二百四口に對し新規加入見込約百口で尙は若干の增加の見込みである、仙臺振替貯金課所屬の口座番號は目下一萬三千番臺に達してゐるそうだが、同課では右利用者の便益を圖る目的から今回脫退等の爲め生じた缺番を來る七月一日以來受入の加入請求書に對し順次補塡する事になつたが其數ゝ僅か三百口に足らず右の範圍內に於て此際振替貯金に加入すれば比較的若い番號を得られ利用上此上もない便利であると謂ふ事である近い口座所管廳(振替貯金課を指す)に加入すれば口座の入金を早く知り又振出其他の手續も迅速に取運ばれて便利であると謂ふ事が未だ一般に周知されてない樣である、其の例として奧羽六縣の振替貯金加入者の內仙臺口座以外の他の口座に加入して居る者が仙臺口座加入者の約三割を占めて居る現狀でも判るそうで、夫等の加入者は現在加入して居る振替口座を仙臺に移替の請求をするか又は新に仙臺口座へ加入して最も有効に口座を利用するのが得策であると

學校衛生視察決定

既報＝縣學務部敎育課の學校衛生視察研究會郡下の分は來る十月二十一日平第一校で開催に決定、郡下各校長、衛生主任その他參集、授業參觀、衛生施設視察の上、研究題『體格向上並に疾病異常の豫防の治療の具體案』その他に關し調査研究主任の研究發表等あると

○○○○○進學兒童父兄會

平第一校の來春上級學校入學を希望する兒童計約百九十名あるが今十九日午後一時から第一回の父兄懇談會を開いた

植田は廿日

出廻り遲る

植田繭市場は昨十八日から開場の豫定だつたが出廻の遲れた關係で延期され明後二十日から開場する事となつた

四倉依然高値

四倉繭市場昨十八日の取引相場は左の如く出廻りは俄然千五百貫(白繭)の多數に上つた

高五圓一五錢 低四圓四〇錢 平均四圓八九錢 掛目三七

性病患者が多い

壯丁檢査に現はれた 時節柄歎はしい傾向

郡下の徴兵檢査は去る十日より開始來る二十九日終了するが壯丁二千百六十五名中現在までの約半數に就て觀ると虎眼患者は他郡市とは大差ないが花柳病患者が極めて多く學歷は他郡に見ぬ上級校多數を示してゐる、なほ服裝は數年來の指導宜しきを得て概して良い方であると、なほ明二十日の受檢は左の如くである(體檢は整理日)

(學力) 江名五六 大浦五五 計一一一

古びたモーニングと 舌先三寸の一と芝居

小學教員崩れ 藁谷の惡の營み

モーニングと舌先三寸を以てボロイ儲けを占めやうとしたが未遂に終りその腹癒せに底の拔ける程飮んで逃走した圖々しい男が平署に捕はれてゐる

―去る十二日磐崎村姥の湯を根城に湯本邊のカフェーで豪遊を働き同署に擧げられた東白川郡宮本村生れ農前科二犯藁谷紫朗(三三)で彼は元と本縣師範學校を卒業、小學校で敎鞭を取つた程の男でありながら落ちぶれ、殺人未遂で一昨年秋懲役五年の刑を終へて宮城刑務所を出獄してゐる、古びたモーニング一着と彼が得意とする能辯でやらかした惡の營みは……

最初石綿山で釣り カフェーで豪遊

第二手段を前にバレる

去月三十日赤井村大倉鑛泉旅館白石源一方を訪れ自分は鄕里に石綿山五町步を持つてゐるが千五百圓で東京市神田の遂野陸郎と云ふ人に賣る約束をしたんだが早く賣りたいからと僞手紙で源一を信用させ同氏の斡旋により田村郡飯豐村代議士小島智善氏實弟渡部延雄(四二)氏に六百圓で賣る約束をし、內金詐欺を働かうとしたが未遂に終つたので、今度は手をかへ富岡に水田十町步を賣りたいと云ふ人があるが俺が一萬圓出すから共同出資で一と儲けをせぬかと兩氏をうまく欺して去月五日該水田の實地見聞と稱して三人連れ立つて富岡へ行く途中腹がへつたからと平町二丁目カフェー天地に入り『現金二百五十圓持つてゐるから心配いらぬ』とそこで百餘圓の豪遊を働きいざ勘定となつた際『財布を遺してしまつたが俺の實家へ行けば金はいくらもある』と野崎のハイヤーに前記三人が乘り込み東白川の實家迄誘ひ出して百圓の國庫債券は五枚あるし、現金七千圓は母が山を買ふ元手として白石方に送つたからと出鱈目の數々を並べて引き返し平驛前迄來て同驛の便所から素早く姿を晦しその足で前記姥の湯に潜伏『詐欺第三手段』の惡智慧をしぼつてゐたものであり、ごこ迄も圖々しい態度に係官も呆れ返つてゐる

矢でも鐵砲でも…… 恐喝二人男捕る

昨夜平署員と格闘

双葉郡龍田村二女次郎隧道工事土工茨城縣多賀郡華川村生れ折笠酉松(三八)は昨十八日夜七時頃內郷村安齋茂吉(三〇)と共謀で長さ四尺餘の根棒を揮ひ內郷村綴遠藤某方に暴れこみ舊怨を種に恐喝して二圓をせしめんとした處急報によつて馳せつけた平署員に格闘の末捕へられたが本署に連行されても『矢でも鐵砲でも持つてこい』と署員に喰つてかゝつてゐた

これは……

小ギャング

同僚から搾取

平町七丁目河田鐵工所職工神谷村中神谷樋口倉次郎(一九)は昨夜平署に『惡い奴を縛つて下さい』と願出た事情をきくと鎌田町から同じく某鐵工所に出て居る高山吉次(二二)と云ふ惡友が最近倉次郎の歸りを待ちぶせしては『小遣に困つてゐるからいくらか貸せ』と威しつけ五十錢位づつ捲き上げてゐたものらしく同署では直に吉次を呼び出し取調べる事となつた

○○落磐

內郷村磐城炭鑛採炭夫岩城三郎(三〇)は十八日午後一時頃同鑛住吉坑內で作業中落磐重傷死

贋戸籍から揉める

實の親子間で訴訟沙汰

神谷村中神谷字寺前鐵道員樋口龜次郎(三六)さんは平町眞木辯護士を代理人として父鶴太郎(五〇)氏母ヨシノ(四〇)さん草野村下神谷字寺前戸田チヨウ(三二)さんを相手どり養子緣組無効並に身分確認の兩訴訟を平支部に提起した

龜次郎さんは明治四十四年七月鶴太郎ヨシノの長男として生れたが內緣關係その他の事情から親族の同村中神谷字寺前亡南葉丈太郎タケノの二男として屆出でたが實父母が大正三年正式の婚姻を結び弟妹が出來たので樋口家を繼ぐ手段として昭和七年中戸田チヨウを養女として婿養子緣組の形式で入籍し事實夫婦關係ないチヨウは間も無く除籍した、南葉氏の子でない事實から戸籍面の養子緣組は無効であり鶴太郎夫妻の長男たる身分を確認して欲しいと云ふにある

濱三郡中等野球へ 平商不出場決定

磐中の陣容全く整ふ

既報―濱三郡中等校野球戰は愈々明後二十一日相中グラウンドで催されるが、平商は不出場に決定して磐城、双葉、相馬三中學のリーグ戰を行ふことになつた、磐中の出場メンバー左の如し

瀬 芳田 山成 三藤 代木 野
長 水 河 秋 金 水遠 矢鈴
投 捕 一 二 三 遊 左 中 右

○○○○○平消防幹部視察

平消防組幹部は明二十日から五日間の豫定で名古屋、金澤、伊勢方面の消防施設視察の旅に上る

拈華微笑 (今日の問題)

所謂日食に對する里俗の見解は、一部の純朴なる階級から日常禮拜の對象とされてゐる太陽が地上のあらゆる生物の贖罪に病患の苦痛に恐從する日とし、その洪大なる恩寵に合掌したものである

×

自然現象それ自身の崇拜或は自然現象の內に宿る神靈の崇拜と、其の何れにせよ所謂自然敎は原始幼稚な宗教に必然の形態で之の地方でも老人などは今尙ほこれを信じて居る向が絕無とは云はれない。今日なども科學文明に取り殘された信仰的場面か在所に展開される事と云つたかたちである

×

恁うした殉教者にとつて煤硝子のアマチュア觀測などは崇嚴なる神靈に對する無上の叛逆冒瀆として少くとも異端扱ひさるる事を免れない。科學と宗教の相剋である

×

それにしても斯界の天文學者が夙くから張り込んだ之の日を一日の遊ひで曇天とは寔に天は皮肉と云ふ外は無い

×

けふから愈々舊の五月に入つた。『時は今天が下知る皐月哉』と逆臣光秀が跳躍した月、植田營林署の金券拔き取り事件なんて世の中が些か物騷になつて來たようである

根本氏美擧

平町二丁目根本善吉氏は亡父丹野榮三郎氏の遺志により今十九日町役場に左の如く寄附した

百圓―小學校 五十圓―助成會 五十圓―消防

來月操業開始

豫定通り ◎人絹の準備進む

復興途上にある錦村昭和人絹工場は外部の建築も殆ど完了、紡糸室、捲取室等は早くも機械類の据付けを開始、一方募集中の男女工も既に一千五百餘の採用をなし豫定通り來月初旬には操業を開始する見込みである

○○○○○山崎氏寄附

平町二丁目山崎德次郎氏は去る三月末隣家草野産業の火事に際し保險會社から贈られた百圓を消防組と保險料率引下運動金として各五十圓宛寄附した

○○暴行

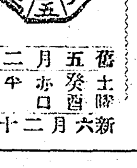
內郷村綴線正二(五八)は十八日夜泥醉の上平町長橋町淸野古物店に暴れ込み家人に暴行を働いて平署に檢束

天氣豫報 小名濱測候所

今晩は南東の風小雨、明日は北東の風曇

二十日 (小名濱測候所發表)

日出 四、二一 月出前 五、〇五
日沒 六、五六 月沒後 七、五一
滿潮 前二、四五 後五、四〇
干潮 前一〇、四〇 後一〇、三五



舊五月二日 癸酉 赤口 午 柳宿 新六月二十日

諸判定鑑定 東京市本鄕區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 急速な發展を望む時は却てさてつすべし ▲二黑 陰德の心にして何事にも宜し口舌は注意 ▲三碧 奇利は無くとも素直に働けば相當の利得日 ▲四綠 人の力を借りず熱心に己が職分を勵め ▲五黃 乏しきも一時の事働けば大にゆう福たるべし ▲六白 進退を愼しみ中を守かたよらざるが吉 ▲七赤 抗すれば抗する程逆境に見舞はる ▲八白 實力を以て爲る事は難事と見へても成る ▲九紫 目前の小利に焦らず永遠の志を立つるに吉

初夏のサロン

食事、喫茶、酒場を兼ねた 男給の店

平・田町・電三五二

手職ヲ覺ヘラル、雜務員募集

一、年令十五、六才
一、初給四十錢內外年二回昇給アリ
一、平町及附近居住者ニシテ通勤シ得ルモノ
一、最初工場ノ雜務ニ從事シ後本人ノ適業ニ廻ス

右希望者ハ本人直接當工場へ御申込ヲ乞フ

電話ノ御照會ハ御斷リ致シマス

平町新田前 丸はん家具製作所

父丹野榮三郎儀病氣の處療養不相叶昨十六日午後八時死去仕候間此段謹告申上候

追而葬送の儀は六月二十日午後二時自宅出棺大舘齊雲院に於て佛式により相營可申候

昭和十一年六月十七日

福島縣平町二丁目

喪主 根本善吉

親戚一同